



## 川端 裕之

日本副代表（日本代表代行）

米国研究製薬工業協会（PhRMA）

川端 裕之は、2021年7月より、米国研究製薬工業協会（PhRMA）の日本副代表として、日本における創薬イノベーション・エコシステムの実現に向けた活動に従事しています。薬価政策、費用対効果制度、政府渉外、ヘルスケア・ビジョン、メディア・コミュニケーションなど幅広い政策提言活動の運営を統括しています。また、2025年9月より、日本政府が主宰する「創薬力向上のための官民協議会ワーキング」の構成員を務めています。

現職に就任する前は厚生労働省に勤務。2002年に入省し、2021年6月まで在籍し、最後は社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長を務めました。

厚生労働省では、障害福祉政策、雇用創出政策、子育て支援政策などの企画から管理まで幅広い行政分野を担当。また、厚生労働大臣政務官の秘書官を務め、国会で多くの法案の審議にも対応しました。

2010年から2012年にかけて、医政局経済課に着任し、日本政府の成長戦略や「医薬品産業ビジョン2013」の策定に携わるとともに、再生医療に関する規制の枠組みを定めた法律案の作成に従事。東日本大震災の際には、被災地への医薬品供給の司令塔的役割を果たしました。

2014年9月から2017年7月までは、JETRO ニューヨーク事務所に出身し、米国ヘルスケア（医療・介護分野）の動向リサーチをはじめ、日米ヘルスケア産業の促進に取り組みました。

その後、厚生労働省大臣官房国際課において、TPP、EPA等多国間、二国間交渉の企画・調整を経て、2018年7月からは地域医療構想、医師偏在対策、医師の働き方改革を三位一体で進める医療政策の企画立案やデータヘルス改革に従事しました。

早稲田大学法学部卒。趣味はジョギングとバスケットボール観戦。